

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491400061		
法人名	ヘルスケアサポート株式会社		
事業所名	グループホームいなべ		
所在地	いなべ市員弁町松之木367-1		
自己評価作成日	令和3年12月15日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosoCd=2491400061-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 4 年 1 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が安心して生活してもらえるように 個々にじっくりサポートをさせていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長をはじめ職員が常に利用者の気持ちを優先させ、一人ひとりに寄り添った支援をしている。入居して日が浅く帰宅願望から暴言・暴力・器物損害のある利用者に向き合った困難なケースにも、医師から処方された薬で抑え込むことをせずに、職員全員で何度でも話し合い問題点を書き出して見える化し、利用者の気持ちを優先させて寄り添った結果、利用者は徐々に笑顔を見せ落ち着いてきた。そうした取り組みが職員のまとまりを生み、意識向上にも繋がっている。理念である『笑顔と信頼』をいつも念頭に置き、利用者と職員が明るくゆったりとした時間を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は入居者様の不安にいつも迅速に対応させていただきます。	『笑顔と信頼』を理念とし、職員の笑顔が利用者に安心感を与え、それがまた職員の優しさを引き出すことに繋がるとしている。何かあった時にも理念に立ち返って話し合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナのために外出できませんでした。	コロナ禍で地域の行事もなく交流はなかったが、自治会で関わりのあった歴代の自治会長から野菜や柚子の差し入れがあり、柚子湯を楽しんだ。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はできませんでした。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進の開催はありません。	コロナ禍で運営推進会議の開催はできなかった。	コロナ禍であっても、これまでの参加者に事業所の取り組みや現状を報告して意見をもらうなど、繋がりが途切れないような取り組みを期待する。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所・包括支援センターに出向き、居宅からの入所者の相談を行いました。	コロナ感染症対応のマスクや消毒液をもらいに行った際や電話で入居者の困難事例について相談をしてきた。包括からも助言をもらいケアに反映させた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止のセルフチェックを行っている。	現在身体拘束にあたるケースはない。帰宅願望が強く器物損害のある利用者の対応について議論を重ね、薬で抑え込まずに寄り添うことで落ち着きを取り戻し穏やかになった事例が職員の力となった。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は常に虐待意識を持ちケアさせていただきます。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の知識向上の研修会等に参加できる体制を整える。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様に契約時に説明を詳細に行い、入居者 家族の疑問に答える。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナで面会できないが、家族の意向を聞き取り運営に反映できるようにします。	コロナ禍で1年以上面会は禁止してきたが、昨年秋ごろから窓越しに元気な姿を見てもらうなどの取り組みをしている。何かあれば直ぐに電話で報告し、毎月の便りに利用者の日常の写真を添えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設会議・ミーティングで職員の意見を聞く機会持っている。	年1回の個別面談は施設長と本社の役員が対応し、職員の要望や悩み等について聞き取りをしている。日常のいろいろな場面で話し合いはある。職員間のトラブルは施設長が気付いた時に個別に対処している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と面談を行い、職員がやりがいを持ち働きやすくできるよう話し合っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格のない職員・経験の浅い職員に対しても今困っていることを話し合ったり、実践方法などをアドバイスする。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の他施設の実践方法を聞き、いなべで活かせるようにする。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が施設に慣れるまで、本人様と1対1で話をじっくり聞きます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までの経緯を聞き、家族の困っていたこと・要望を話し合い		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の不安を軽減できるよう、連絡を密にとります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にできる作業を行い、常に感謝の声かけができるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を常に取りあいながら、本人様を支えられる助言を頂きます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙を家族に送り関係の継続を行います。	コロナ禍で家族や知合いの面会はない。普段発語の少ない利用者が家族や兄弟との電話では声が出せることに気づき、時々利用してもらっている。また、暑中見舞い・年賀状などを出す支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作業の分担を行ったり、ゲームを一緒にやっていただき利用者同士が、笑顔で助けられるようにします。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても、いつでも来所していただけるような関係作りを行います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者さまの中には、自分の気持ちを言葉で表せない方もいらっしゃるので、行動・言動をきちんと把握させていただくようにしています。	思いや意向を言葉に出せない利用者については表情などから汲み取り、穏やかに過ごしてもらえよう支援している。個人の新しい意向を把握した時には、連絡帳に記録し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の生活歴をお聞きして、安心して過ごしていただけるサービスにつなげます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を把握して、本人の生活リズムを作って頂きます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で意見交換を行い、現状に合わせた支援をさせていただきます。	3か月毎にモニタリングをして、介護計画の確認をしている。ケアマネージャーを兼務している施設長が毎朝利用者の顔を見て状態観察をして、気付きがあれば申し送り時に報告している。コロナ禍で運動量が減らないように職員が声掛けしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録の中で特記事項の共有を行い、介護計画に反映いたします。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族のニーズを積極的に聞き柔軟に対応させていただきます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なじみの方々とのコミュニケーションを大切にいたします。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望・意向を聞きながら、施設での状態報告を綿密に行います。	入居時に利用者・家族の意向を聞き主治医を選択する。協力医は月1回の定期訪問診療と、協力医院の看護師が毎週1回健康観察して医師に報告している。他のかかりつけ医の受診には家族が付き添いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化・異常不安を看護師に報告し、利用者様が健康に暮らしていただけるようにします。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は施設での普段の状態報告を行い、利用者の不安を軽減できるように努めます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を確認し、主治医との話し合いを重ね24時間対応の診療所も利用し、家族・職員が納得の行く支援を行っている。	ターミナルを迎え家族の意向で看取りになる時には、協力医の紹介で訪問診療の看取り専門の診療所に依頼している。24時間対応で家族も職員も安心感がある。今年度は3名の看取りがあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成、AED・人工呼吸ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを整備、備蓄品の確保につとめている。	今年度は職員の体制が困難な時期があり、今のところ避難訓練は実施できていない。コロナ感染症予防のための物品や非常時の食品は多めに備蓄している。	今年度の事業所の事情はともあれ、年2回の避難訓練を机上訓練なども交えてできる範囲で実施し、いつ起こるか分からない災害に備えられるよう期待する。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重しながら、誇りや声掛けにも気を付けています。	一人ひとりの利用者の特性を把握し、人格を尊重してケアに当たっている。特にトイレ誘導の声掛けには気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己表現の難しい方もいらっしゃるが、なるべく本人様が決定できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせ、焦らせないで行動をしていただきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をされる方や、整髪・髭剃りも声掛けさせていただきながら支援させていただきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は本人様の好みを大切にして、無理強いせず楽しく召し上がって頂きます。	調理師が週の半分を手作りして、後の半分は業者に発注した材料で職員が調理している。毎月お楽しみ献立の日を設け、利用者の食べたい物を利用者もできることをして参加し、楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取に気を付けてお茶だけでなく、珈琲・ココアなどいろいろ召し上がって頂きます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアをきちんと行い、入れ歯の管理 仕上げ磨きをさせていただきます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間で声掛けするのではなく、利用者様の行動や動きを見ながらトイレでの排泄支援をさせていただきます。	約3割の利用者が自立しているが、排泄パターンに基づいて声掛けをし、トイレ誘導している。脚力を維持するためにも立位が保てるようにして、できる限りトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に気を付けて、積極的に水分が取れるように致します。また、レクも体を動かしていただきます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔保持だけでなく、気持ち良く過ごしていただけるよう ゆっくりリラックスできる環境を作らせていただきます。	週に2～3回入浴支援をしている。汚染があれば随時入浴し清潔を保持している。一人ひとりの好みのペースを大切にゆったりと時間をとっている。季節の柚子を差し入れてもらい柚子湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ゆっくり寝られるようなリズム作りを行います。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤のセット時はダブルチェック、服薬時の確認を行います。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりできることに合わせた楽しみを見つけ、気分転換を行います。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で中々外出ができませんでした。花を見学に出かけたり、花壇のはなを見たいいただきながら気分転換をしていただきました。	コロナ禍で人の多い所を避けて花見に行ったり、天気の良い日には近所の地藏堂まで職員と歩いたり車いすで散歩している。玄関前の花壇をできる人で整備して花を植え、草を抜いたり世話をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の金銭所持はありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	普段ほとんど言葉を発せられない方も、電話は喜ばれるので家族に依頼致しました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜間の照明の調節や、プランター栽培の野菜作りに参加して頂きました。	玄関からつながる廊下は広く、壁面には合作の季節の壁飾りや利用者直筆の年賀状が飾られている。リビングの大きな窓からは、山々や田畑の風景が広がり、季節の移ろいを手に取るように感じることができる。利用者は、リビングや廊下に置かれたソファなどでゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の交流は難しくなってきました。居室での休養も随時させて頂きます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた家具・寝具を持参いただき、本人様が心地よく使っていただき、整理も一緒に行います。	居室には、ベッド・クローゼット・エアコンが設備され、使い慣れた家具を持ち込んだり、化粧品など自分らしく暮らすために必要なものを用意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ・洗面所の把握を促して、混乱時は一緒に行動させていただきます。		